

平成22年度 被助成活動報告書

(ボランティアグループ)戦争を語りつぐプロジェクト

◎ 活動の目的

戦後日本の発展は、日本人だけで310万人の戦争犠牲者の上に築かれてきた歴史を忘れることはできません。その歴史から教訓を学びとり、二度と愚かな戦争にのめり込まない国の基盤を固める必要があります。

そのためには、宗教的精神に基づいて平和を守るボランティア活動が重要な役割を担っていると信じるものです。

高齢者が戦争中の苦難の体験を語りつぐことは、祖父母の苦労があって今日があることを戦後生まれの世代が自覚し、家族の絆を深め、平和の大切さを再確認することになるでしょう。

戦後60年目を迎えた7年前に私どもは、それまで発言の機会をもたなかった市民層の戦争体験を取材し、戦争を知らない世代へ伝えるためにホームページを開設するボランティア活動を有志グループで始めました。その<戦争を語りつぐ証言集>サイトには、男女を問わず年齢順に多くの証言を、データベースとして掲載しています。

その中には、日米開戦と同時に敵国人として差別され強制収容された在米日系一世・二世たち（ハワイを含む）17名の苦難に満ちた証言記録も含まれています。その記録は、たまたま知り合った日系四世の国際ジャーナリストの好意と協力によって収録されたものです。

さらに私どものプロジェクトは、各地域の教育委員会や小中学校が、生涯教育や平和教育の一環として実施している戦争語り部の動きに協力して、スタッフが現場に参加して取材し、その記録を有効に活用することにも積極的に取り組んでいます。

(被助成事業を開始した平成22年8月より23年4月までに、証言者リストに19名の証言を追加しました)

◎ 活動の内容と方法

私ども戦争を語りつぐプロジェクトの活動は、原則として個人的な紹介や情報によって特定の高齢者を訪問し、活動の目的を説明して取材に応じて下さる場合、大凡の質問項目にもとづいて、約40分～1時間にわたり録音します。

次に、その録音テープ（またはMO）を文章化し編集したテキストのプリントを証言者に届け、内容のチェックと修正のうえ承認を受けます。その上で、個人情報の保護に十分配慮してHPに掲載します。そのための登録、更新、管理などの作業も必要となります。

平成22年度の庭野平和財団による助成事業としては、以上のように戦争体験をもつ高齢者を個々別々に訪問面接して取材するだけでなく、より積極的に、新聞その他の情報をもとに集団的な現場に参加することに努力しました。その結果、奈良県内市町村の教育委員会との繋がりも出来、公民館での平和に関連する集会や小学校での戦争語り部による課外授業の取材も実行することができました。

なお、こうした戦争証言の取材の他に、平和関係団体の集会への参加、および平和の構築に有意義な歴史資料の発掘と公開なども積極的に行なうことができました。

◎ 活動の実施経過

(1) 「戦争体験を聞く会」の記録

戦後65年目に当たる平成22年8月8日、奈良県葛城市の中央公民館を会場に「戦争体験を聞く会」が催されました。主催は同実行委員会、同市教育委員会の後援によるイベントでした。私たちのプロジェクトのメンバー4名は、事前にその企画を知って参加しました。

会場では戦場での携行品や激励の寄せ書きをした日の丸の旗、戦後「紙くず」同様になった戦時国債など、各種の展示があり、椅子席は全部参加

者で埋まっていました。

それぞれ世代の違う4名の体験発表を聞いていて、つくづく世代の違いで体験内容や受け取り方が違うことを痛感しました。そうした意味でも、私どものHPサイト〈戦争を語りつぐ証言集〉は、年齢順に戦争証言を並べて公開している意味は大きいことを感じました。

この日発表された戦争体験の記録は、主催者の了解を得てテープに録音し、写真も撮影できたので、そのテープをもとに特集記事を作成し、HPに掲載するとともに、この集會を主催した実行委員会が記録として保存するためにHPのファイルをプリントして提供し、たいへん喜ばれました。

(HPに掲載している記録の目次をプリントして添付しました)

(2) 〈特集〉県内吉野郡大淀町の戦争語り部

昨年(平成22年)8月29日、毎日新聞(奈良版)で、戦争語り部活動の記事が掲載されました。企画・主催は奈良県吉野郡大淀町教育委員会に事務局を置く学校支援地域本部で、会場には戦場での幸運を祈る「千人針」や日の丸の旗への寄書き、その他、軍服などの展示もありました。

こうした大淀町の取り組みを知った私たちは、〈戦争を語りつぐ証言集サイト〉を6年前から開設しているボランティア・グループの趣意と資料を添えて、上記の学校支援地域本部あてに戦争語り部の紹介を依頼する書面を発送しました。幸いコーディネーターの亀田榮子さんから理解ある返信を頂き、戦争体験者の了解を得た上で氏名・住所・電話などを教えて頂くことができました。その後、紹介を受けた語り部の方々を取材する前に、役場内の教育委員会事務局を訪ねて亀田さんにもお会いして、戦争を語りつぐ活動への並々ならぬ熱意を感じました。

この〈特集〉の取材・編集・更新に当たっては、「庭野平和財団」平成22年度助成事業の一環として実施したことをHPの中で明記しています。

その後、平成22年10月12日同町教育委員会では、大淀桜ヶ丘小学校6年生を対象に、広島への修学旅行の事前授業として「戦争語り部の会」を開催しました。私どものプロジェクトでは、スタッフ3名とともに参加して現場で取材することになりました。小学生たちは10名ずつ3交替で

語り部のおじいさん・おばあさんを取り囲み、紙芝居や軍装品を使った体験談に聴き入っていました。

当日録音し写真撮影した記録は、文章化して編集した上で同町教育委員会の亀田コーディネーターに提出し、語り部本人の承認を受けてHPに掲載するとともに、そのファイルは教育委員会の手でプリントされ、冊子として関係方面に配布されました。

なお、その後も23年にかけて、大淀町在住の戦争体験者の紹介を受け、追加取材することになりました。(添付資料を参照して下さい)

(3) 平和に関連ある集会・行事への積極的参加

このたび貴財団からの助成を受けることができたおかげにより、上記の集会や行事に積極的に参加することができました。その経費の明細は別紙書類に記載していますが、とくにダライ・ラマ法王が広島での平和宣言のために来日され、奈良市の東大寺を会場として公開講演会が催された機会に、チベット政府のための寄付金を含む講演会に出席できたことは、ひとえに貴財団の助成金のおかげによるものと感謝しています。

これらの集会・行事への参加報告は、併設しているブログに随時書き込んでいます。

なお、当メンバーが参加した主な平和関連集会あるいは行事の案内パンフ等は、参考資料として添付していますので、確認して下さい幸いです。

◎ 活動の成果

以上の実施経過によって得た成果はすべて、私どものプロジェクトが開設しているホームページ<戦争を語りつぐ証言集>および<戦争を語りつぐブログ>のコンテンツに反映しています。

URL=<http://www.geocities.jp/shougen60/>

(資料として HP表紙・目次のプリントを添付しています)

その結果、被助成活動を開始した平成22年8月より平成23年4月までの間に、HPのアクセス数は約9千人増加し、延べ18万人超になりました。

また、上記の活動の実施経過に述べましたように、奈良県内 市町村の教育委員会や平和活動の実行団体と連携して活動することができました。

今までに戦争体験を取材した高齢者は例外なく、自らのかけがえのない戦争体験を語ったことに満足の意を表し、HPを通して遠隔地の親族や友人知人に読んでもらえたことに喜びを感じています。

一方、戦争語り部から課外授業を受けた小学生たちは、たとえ戦時中の食糧難の体験であっても、全く信じられないような珍しい話として、真剣に聞き耳を立て、敏感な反応を示していました。とくに、幼少期に父が戦死したために母親の手一つで育てられ経済的に苦労した体験に対しては、ちょうど同じ年頃の不幸な体験であるだけに、わが身と比べて実感することができ、共感を呼ぶ面が多かったようです。

もちろん戦場へ駆り出された体験だけではなく、内地で空襲の被害を受けた女性たちの戦災や食糧難の体験も重要な意味を持っていることは申すまでもありません。

◎ 今後の課題

今後の活動としては、戦争体験者自らのナマの言葉で戦争の実態を語りつぐことが、平和を守る前提として不可欠であるとの自覚に立って、さらに戦争証言の収集に努力していきたいと思えます。

その場合、高齢者個々に面接するだけでなく、社会福祉協議会の担当部署を通して各地域の老人会役員へ働きかけ、それぞれの地域で戦争語り部となってもらえる高齢者を紹介してもらい、その中から地域の小中学校の生徒へ語り部として課外授業を実施できる方向でボランティア活動を積み重ねていきたいと思っています。

戦争体験者の高齢化に伴い、ナマの声を聞く機会も後数年という限界が迫っています。私どものプロジェクトとしては、それまでに一人でも多くデータベースを充実させたいと願っています。今後とも貴平和財団のご助力を切に期待いたします。

(おわり)

